



1_ 全国の舞台で1勝を挙げた野本寛人選手(左) 2_ 練習会場の一つとなった猪苗代高校体育館で補助役員を務める猪苗代高校の生徒ら 3_ 駐車場で車両の誘導を行う県建設業協会猪苗代支部のメンバー 4_ 開会式で歓迎のあいさつを述べる遠藤涼斗猪苗代高校生徒会長 5_ 選手宣誓する学法福島高校の宮崎飛生雅男子主将と遠藤あかり女子主将 6_ 男子個人形で優勝し、前後公町長から町長杯を受ける立教新座高校(埼玉県)の山中望未選手 7_ 来場者にパンフレットを配布する猪苗代高校の伊藤綾音さん(左)と古川芹菜さん



はばたけ世界へ 南東北総体 2017 本町でインターハイ空手道競技を開催

本町を舞台に決戦

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)空手道競技大会は7月28日から31日まで、カメリーナで開かれ、各地区の予選を勝ち抜いた各県代表が、本町を舞台に全国の頂点を目指して熱い戦いを繰り広げました。

空手道競技の開会式は7月28日、同所で行われ、全国高体連の近藤彰郎空手道専門部長、全日本空手道連盟の笹川堯会長があいさつ。前後公町長が「空手道は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの正式種目に追加されました。オリンピック出場を目標に頑張ってください」と述べ、選手たちを激励しました。

また、地元高校生を代表して猪苗代高校3年の遠藤涼斗生徒会長が「歴史ある猪苗代町へようこそお越しくださいました。『繋がる絆魅せよう僕らの若き力』のスローガンのもと、光り輝く選手の皆さんを最大限サポートします」と歓迎の言葉を述べました。選手宣誓では、学法福島高校の宮崎飛生雅男子主将と遠藤あかり女子主将が「これまで切磋琢磨してきた仲間たちとの絆を力と技に変えます」と力強く宣誓しました。

員のほか、大勢の観戦者ら延べ約2万1千人が来町。県内空手道部の高校生や猪苗代高校生、県建設業協会猪苗代支部、町体育協会や町スポーツ推進委員など、多くの人たちが大会運営を支えました。

地元から野本選手が出場

本大会には、尚志高校2年の野本寛人選手(川桁)が男子団体組手に出場しました。

男子団体組手の1回戦に臨んだ尚志高校は、岡山県代表のおかや山陽高校と対戦。副将戦に登場した野本選手は、得意の鋭い突きを中心に攻撃を組み立て、接戦の末に勝利。尚志高校は4-1で惜しくも破れましたが、野本選手はチーム唯一の白星を挙げました。

野本選手は試合後「初めてのインターハイということもあり、少し緊張していましたが、地元の方々の声援に励まされるよう試合に臨みました。強豪校が相手だったので、気持ちの部分で押されそうになりましたが、チームみんなで力を合わせて戦えたと思います。来年は個人団体の両方でインターハイに出場できるよう、仲間たちと練習に励みます」と力強く話しました。

大会を支えた高校生たち

本大会は、県内の高校の空手道部が競技運営を補助したほか、猪苗代高校の生徒が総合案内係や練習会場係などを担当。多くの高校生たちが大会運営を支えました。

練習会場係を務めた猪苗代高校1年の佐藤一真さんは「日本のトップレベルの高校生の技術を見ることができました。同じ武道部員として、自分も頑張ろうと思いました」と話しました。同校バスケットボール部2年の鈴木和志さんは「最終日のマット撤収など、裏方の仕事は

大変でしたが、充実した時間を過ごすことができ、良い経験になりました」と感想を話しました。

猪苗代高校の体育館は、大会期間中公式練習会場の一つとなったため、同校の生徒たちは自分たちの部活動ができない状態でした。しかし、生徒たちは選手の目線に立って、会場の表示や案内などを率先して行っていました。

インターハイは、全国から集まったトップアスリートによる競技大会ですが、こうした地元の高校生たちの隠れた努力が大会運営を支えていました。



猪苗代町実行委員会
兼田 芳宏 事務局長

空手道に青春を懸けた全国各都道府県代表の高校生たちが猪苗代町に集い、その頂点を目指した本大会では、期間中の4日間で約2万1千人の皆さんが来町しました。大会の運営に当たっては、各団体をはじめ多くの皆さんに競技・運営役員、補助員としてご協力をいただき、誠にありがとうございました。また大会では、皆さんの温かいおもてなしにより「磐梯山より高い志」と「猪苗代湖より広い心」を持った町民の心意気を全国に発信することができました。